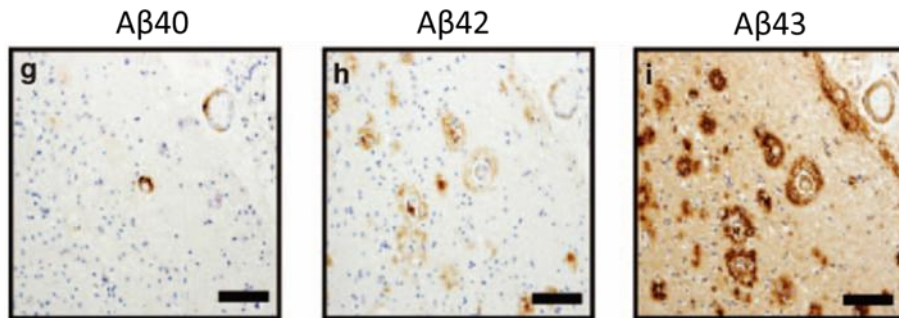
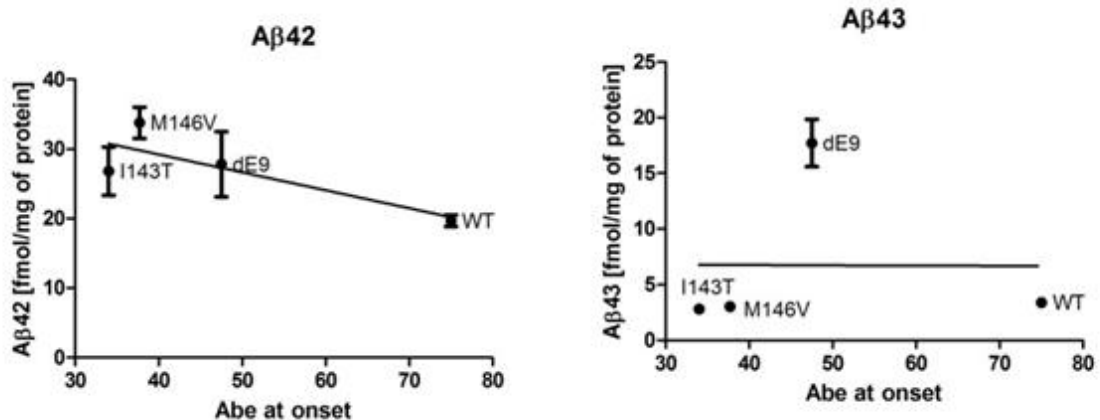


# 家族性アルツハイマー病(PSEN1 I143T)におけるアミロイド $\beta$ 43の神経毒性について

研究分担者： 東京医科歯科大学大学院脳神経病態学（神経内科） 水澤英洋



Keller 2010



## 解 説

1. 家族性アルツハイマー病 (FAD) (PSEN1 I143T) は、発症年齢は平均 32.5、平均罹病期間は8.7年、認知機能障害の他に失調症状、ミオクローヌスなどの症状を呈する。病理所見では、老人斑にはA $\beta$  42とA $\beta$  43が蓄積する(上図)。
2. I143Tを含むFAD変異はを有するPSEN1 によりA $\beta$  42 の産生量は発症年齢と相関が認められた。A $\beta$  43 の産生量は発症年齢と相関が認められず、病態への関与は少ないと思われる(下グラフ)。